

平成29年度第2回成田市環境審議会会議録

1 日 時 平成29年8月17日(木)
午前10時30分から午前11時30分まで

2 場 所 成田市役所6階中会議室

3 出席者

(委員)

本橋敬之助会長、森山茂副会長、片岡孝治委員、一色尙夫委員、印宮昭夫委員、長尾ミチ子委員、西山重男委員、佐藤勝幸委員、田中典枝委員、小島猛委員

(成田市)

環 境 部 石井部長

(事務局)

環境計画課 椿課長、吉原課長補佐、渡部係長、東係長、平山主査、横田主任主事

環境対策課 大竹課長

クリーン推進課 黒田課長、八代主幹、田部主任主事

環境衛生課 堀越課長、齊藤係長

(成田市一般廃棄物処理基本計画策定業務委託受託者)

株式会社環境技研コンサルタント 石田氏

4 議題

(1) 一般廃棄物処理基本計画の策定について【報告】

(2) その他

5 傍聴者

1名

6 会議次第

1. 開会

2. 議事

(1) 一般廃棄物処理基本計画の策定について【報告】

(2) その他

3. 閉会

7 議事（要旨）

（1）一般廃棄物処理基本計画の策定について【報告】

クリーン推進課田部主任主事、環境計画課東施設整備係長より、説明を行った。

議題（1）において出された質問等は次のとおり。

（○・・・質問、→・・・質問に対する回答）

○一般廃棄物処理基本計画について、ごみの量が非常に増えている中でどのように対策していくべきかという点が特に重要だと考える。ごみの増加の要因としては、分別が徹底されていないことが考えられる。何としてでもごみの量を減らさなければいけないと考えたときに、有料化も一つの手段であり、実施していくべきである。一部有料化ということも考慮して検討してほしい。また、有料化は最終的なごみ減量対策とも言えるので、その際は慎重な判断をお願いしたい。

→市としても有料化については、検討すべき課題と考える。有料化を実施する際には、慎重な審議を尽くし、市民の意向も十分に把握し検討していくべきと考える。今回はそのベースとなる一般廃棄物処理基本計画について審議いただきたい。

○4ページの資源として排出された紙類、衣類・布類の資源化量とあるが、衣類の数字が下がっているが、衣類は別の形でリサイクルしているとも考えられる。そうではないのか。
→衣類については、数字を把握するのが難しいが、リユースという形で行われている部分もあると考える。

○4ページにおける資源化という言葉の意味について、出てきたもの全てを資源化しているのか。それとも、でてきたうちの何パーセントかを資源化しているということか。
→4ページの数字については、資源として排出されたもの全てを資源化しているという形になる。排出されたもの全てについて、紙は溶融して再生し、衣類についても海外に資源として送っている。

○溶融スラグの販売について、自治体のごみ処理場の総事業費に対して何パーセントくらいなのか。かなりの割合を占めるのか。
→スラグについては、年間1億3千万から1億5千万程、最終処分にかかっている。ストックヤードが来年の1月～2月に完成する予定のため、スラグを骨材に10パーセント入れて、スラグ入り合材という形をとる予定である。将来的には、1t100円程度で売却を予定しており、市内の舗装等の際の利用について、関係各課と調整している。

○ごみの発生抑制について、市のイベント等にて周知していると思うが、その回数を増やす等の強化が必要と考える。ペットボトルキャップについて、以前はキャップを別に回収して役立てていたと思う。現在はプラスチック製容器包装と同じ分別になっているが、取り組みを以前に戻す等、何か考えがあれば教えてほしい。

→ペットボトルのキャップについては、現在も社会福祉協議会で集めている。また、市ではペットボトルキャップやラベルについて、プラスチック製容器包装ということで回収し、花のプランターやプラスチックのコンテナとしてリサイクルされている。

○一般ごみの収集の中で、資源ごみの収集量が減っているということだったが、これが進めばリサイクル団体が減少するのは当然のことだと思う。集団回収について増加するよう進めていると思いますが、集団回収については、これからどういう方向になるのか。

→団体数については少子高齢化等の影響で団体数は少なくなっている。年に1度未登録団体に通知し、昨年は団体数は6～7団体増加しましたが、同時に6～7団体減少した。現在のところ、市としては、リサイクルに出すという意識付けのためにも継続して推進していく考えである。

(2) その他

- ・第3次環境基本計画策定に係る質疑について
- ・今後のスケジュールについて

8 次回開催日 (予定)

平成29年10月17日 (火)